Suma Tomogaoka 通信

兵庫県立須磨友が丘高等学校　総合学科推進部
令和８年度　第１号　５月１４日発行

「消去せずに」

校長　塙　守久

新しい年度を迎えて、皆さんはそれぞれ、この１年への期待や意気込みを抱いたことと思います。「初心、忘るべからず」という言葉がありますが、改まったときに抱いた思いが、自分を励まして前進させる力になることは疑いのないことです。

私も、新年度を迎えて、いろいろなことを感じ、さまざまなことを考えました。けれども、私はもの覚えがよくありません。いったん気持ちを引き締めても、すぐに忘れてしまいかねません。その対策は、私の場合は、ひとつしかありません。忘れないようにメモをとって残すということだけです。記録しているものを読み返すことによって、その時の状況や思いを甦らせる助けになります。

ところが先日、あるところで若い方々にお話しをした時、「これは大切なのでメモしてください。」と言ったところ、半数以上の方がゴソゴソとポケットを探り、スマホにメモを打ち込んでいました。時代の変化を感じました。私はスマホに記録していたものは何らかの事情で一瞬のうちに消え去るかもしれないという不安を感じ続けています。やはり大切なことは手帳にメモをとらないと気がすみません。

消えたら消えたでいいではないかという、割り切った気持ちになれないのはなぜでしょうか。それは、いったん自分が考えて作り出したものを、必要性が薄らいだからといって次々と消していっていいのだろうかという気持ちと表裏一体になっています。

人は、その人その人の独自の歴史を積み重ねて生きています。それは、昔のことにこだわるとか、過去ばかりを振り返って生きているという意味ではありません。私は、毎日の日記を書こうとか、何かの作品を残そうとかということを勧めようとしているのではありません。

ひとり一人はみんな異なった道を歩いています。いいこともあれば、うまくいかないこともあります。しかし、今、自分が歩いている道を、歩き終わったらすぐに消していくことだけはしないでおこうということを言いたいのです。

自分が歩いている道のことを、歩いている自分が責任を持ち納得して歩き続けるとともに、立ち止まって振り返り見たときに自分を評価してやることができる。そのような道を歩きたいと思います。

皆さんにとって今年１年が、そのような年になることを願っています。自分独自の歴史を積み重ねてしっかりと歩いていってください。

離任・着任された先生方

先生方の新たな環境でのご活躍をお祈り申し上げます！

お世話になりました！
転出・退職（敬称略）

事務長	吉田　朗子	（県立神戸学園都市高等学校・県立伊川谷北高等学校）
国　語	高橋　秀和	（県立夢野台高等学校）
国　語	土手　みさこ	（県立神戸高塚高等学校）
数　学	篠田　明代	（県立北須磨高等学校）
英　語	石田　加奈子	（県立神戸商業高等学校）
英　語	柏木　優作	（ご退職）
英　語	小滝　哲也	（県立宝塚西高等学校）
英　語	松本　雄基	（県立鳴尾高等学校）
芸　術	橋爪　万里子	（県立西宮香風高等学校）
養　護	川畑　智美	（ご退職）

よろしくお願いします！
転入（敬称略）

事務長	長田　栄作	（県立西宮苦楽園高等学校・西宮北高等学校）
国　語	田代　裕也	（県立高砂高等学校）
国　語	山下　佳奈	（千葉県立袖ヶ浦高等学校）
地歴公民	森川　公武	（県立播磨南高等学校）
数　学	野田　幸枝	（県立北須磨高等学校）
英　語	平井　志保	（県立神戸商業高等学校）
英　語	伊東　麻里	（県立神戸甲北高等学校）
英　語	生田　和明	（県立三木東高等学校）
英　語	島津　康夫	（県立須磨東高等学校）
芸　術	樋渡　正衡	（兵庫教育大学大学院派遣）
養　護	大越智　眞弓	（県立明石清水高等学校）

１年次「産業社会と人間」　グループワークの基本

４月２４日（金）「産業社会と人間」の授業の中でグループワークの基本を身にける講座を実施しました。まず初めに「食糧危機の中で昆虫恐怖症の友人に昆虫を食べてもらうために、どのように説得するか」というテーマでグループワークを行いました。司会者、書記、発表者の役割を決め、お互いの意見をグループ内でシェアしてまとめるというグループワークの基本を実践しました。また、代表グループは全体の前で実際に昆虫を食べてもらうよう説得するというロールプレイも行いました。講座の後半は「１００年後の子供たちの遊びはどうなっていると思う？」等の答えなない課題について意見をまとめるグループワークを行いました。どのグループもそれぞれが意見をしっかりと出し合い、最後の全体発表では自主的に発表できたグループが多数ありました。

【生徒の感想】

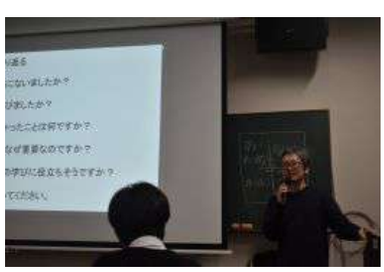
・グループワークで自分以外の意見を聞くと、自分とは違う角度からの意見やその意見を聞いて新たに考えが思いついたり、そんな考えもあるのか、と学びになることが多かった。様々な角度からの意見をまとめるのは難しいことだったけれど、お互いの意見や共通点を探して情報を整理しながら理由をまとめる作業はとても楽しかった。次からのグループワークもお互いの意見を尊重しながら、よりよい意見を出せるようにしたい。
・グループワークをして気づいたことは、一人ひとり違う考えや理由を持っていて、その違う意見をどうにかして合わせることで、よりよい意見が生まれるということだ。しかし、全くの対極的な意見が出た時はただかけ合わせるだけでなく、互いのメリットを活用できる新たな意見を出すことが大切だと分かったので、次のグループワークでは、意見のメリットを意識して話を聞きたい。
・今日のグループワークをしてみて、同じ題材でも全然違う意見が出てきたし、考えつかなかった意見が多かった。でもその意見を聴くことで自分の考え方が広がったし、納得できた。そして、発表する際もまず問いを相手に立ててから結論→理由を言うことでよく内容が入ってくるし、印象にも残りやすいと考えた。考え方、意見も大切だけど、発表の仕方、聴き方も重要だと分かった。自分の発表の際にも生かしたい。

１年次「産業社会と人間」　ハテナソン

５月１日（金）京都産業大学の佐藤賢一教授にお越しいただき、「自ら問いをたてる学びを実践し、対話するハテナソン授業」と題して講義をしていただきました。

まず初めに身近なことに浮かんだ「ハテナ」に対してさらに問いをたてるというグループワークを行いました。問いを重ねることによって思考を深めることができるということに気づくことができました。

次に、佐藤先生の「卵細胞」をテーマにした講義を聴き、その中で浮かんだ「ハテナ」をグループで議論しました。議論することによって問いを掘り下げることができ、その問いから新しい発見が生まれるということを学びました。また、「開いた問い」と「閉じた問い」についても教えていただき、それぞれの特徴や目的に応じてそれぞれを使い分けると良いということも学びました。今日学んだ「自ら問いをたて、問いを通して考える」ことを心に留め、これからの探究活動等の学びに活かしていって欲しいと思います。



【生徒の感想】

・今まで問いを立てるときには、答えを探すことばかり考えていました。しかし、今回の講演会を通して、問いを作ることは、自分の考えを深めたり新しい視点に気づいたりするために大切なのだと感じました。これから、すぐにこたえを出そうとするのではなく、「なぜだろう」と考えることを意識していきたいです。
・問いは１人で作るだけではなく、みんなで協力して作ることで、自分には思いつかない視点や新しい発想に気づき、より深い問いにつながると学んだ。
・生活の中で当たり前だと思っていることでも、なぜそうなるのかと考えることで、新しい発見や学びにつながるということが分かった。今回の講演を通して、日常生活の中で積極的にハテナを見つけ、自分なりに考え続けることを意識していきたいです。

２年次「課題研究」 オリエンテーション

４月 13 日（月）の６時間目、課題研究の初回授業が始まりました。課題研究は、単なる調べ学習にとどまらず、生徒一人ひとりが自らの「問い」を立て、探究を深めていく研究活動です。その第一歩として、この日は全体指導とテーマ設定のためのグループ活動が行われました。

授業の前半は、セミナールームにおいて総合学科推進部の櫻木先生によるテーマ設定の講義が行われました。春休みの課題として各自が考えてきた 10 個の研究テーマ案をもとに、「客観的に検証が可能か」「高校生として扱えるテーマか」「取り組む意義があるか」という三つの視点から、自分のテーマ案を見つめ直しました。また、過去の先輩方が取り組んだ多彩なテーマの事例が提示され、テーマを見つけ出す視点や発展のさせ方、研究の進め方が丁寧に紹介されました。生徒たちは先輩の事例と自分自身のテーマ案を照らし合わせながら、真剣にメモを取る様子が見られ、教室全体に真剣な空気が漂っていました。

授業の後半は、グループに分かれ、テーマ設定のための活動を行いました。各自が考えてきた 10 テーマの中から有力候補を選んでグループ内で発表し、互いに質問や意見を交わしました。友人からの素朴な疑問が新たな視点となり、漠然としていたテーマが質疑応答を経て焦点が絞られてきたりと、対話によってそれぞれの研究の構想が形を帯びてきました。

これから始まる課題研究は、１年次の「産業社会と人間」で培った視点を土台として、それぞれの問いをさらに深めていく学びです。答えのない問いに向き合い試行錯誤を重ねながら研究を築いていく、そのプロセスが課題研究の醍醐味です。

今回の全体指導とグループ活動で得た気づきをベースとして、43 回生の２年次課題研究がいよいよ本格的にスタートします。

２年次「課題研究」 オリエンテーション第二弾

５月 11 日（月）の６時間目、セミナールームにて「そのテーマでいいの？」と題したオリエンテーションが行われ、櫻木先生から研究テーマについての再検討を促すお話がありました。

講義では、生徒が提出した「研究企画書」の（仮）テーマを実際に取り上げ、それぞれが研究として成り立つかどうかを丁寧に解説していただきました。

自分や友人のテーマが紹介されるたびに歓声が上がるなど、生徒たちは終始前のめりな様子で、示された添削例やアドバイスを自分事として受け止めながら、『課研ノート』にメモを取っていました。

また、AI の使用に関する注意事項についても説明があり、課題研究を通じて身に付けるべき力を改めて確認する機会となりました。今回の学びを活かし、ゼロから自分だけのかけがえない研究テーマを見つけ出してほしいと思います。

３年 「総合的な探究の時間」 スライドデザイン講演会

３年次１学期の「課題研究Ⅱ」は、各自が２年次「課題研究Ⅰ」で取り組んだ研究をスライドにまとめ、プレゼンテーション発表を行います。

４月 23 日（木）の１回目の授業は、「スライドデザイン講演会」を実施しました。講師は、神戸芸術工科大学大学院博士課程の大嶋優希子さんで「伝わりやすいプレゼンテーションスライドの作り方」を教わりました。

良い例と悪い例を比較しながら説明してくださり、生徒たちはメモを取りながら真剣に聞き入っていました。６月の各ゼミ内で行う発表会に向けて、実践的な学びの時間になりました。

【生徒の感想】

・今まで行ってきた発表では自分が満足するスライドを作れたことがなく不思議だった。今回の講演会を聞いて、自分はいつも「内容を詰め込みすぎている」ことがわかった。今回教わったことをこれからの機会に活かしたい
・アニメーションは見る人が疲れるため、教わったように、色の濃淡やフォントを工夫することで画面に動きを感じるようにしたい。シンプルな見た目にしながらも伝えたい内容が一目でわかるスライドが相手にとって「受け取りやすい」ということを教わったので、これからは、色使いの視点でも工夫をしたいと思う。
・プレゼンをする相手や状況によって文字の大きさを変えたり、内容によってフォントや色の使い方を変えたり、自分がしたいプレゼンをするのではなく相手が理解しやすいプレゼンをすることが大切だと改めて分かった。これからプレゼンすることが多くなると思うので、講演会で教わった、相手により理解してもらうための５つのルールを使いこなしたい。